

2017年11月25日(土)～26日(日)

## 我孫子市の「2017 市民のチカラまつり」に参加しました！

千葉県我孫子市では市民活動を一般に広くアピールするためのイベントを年1回、数年間続けて開催してきましたが、今年も「2017 市民のチカラまつり」と銘打って開催。JR我孫子駅前のけやきプラザ2階ホールの内外にはたくさんの展示用テーブルが並べられ、2日間にわたり展示や物品販売、パフォーマンスが行われました。また、7～9階の研修室や会議室においては、各種の講演会や講座が開かれました。

### ホールでは手賀沼の魚を展示し、たくさんの方が見に来てくれました

手水研も2階ホール内にスペースをいただき、淡水魚タナゴについてのポスターを張り、机では手賀沼で獲れた魚やエビを展示しました。生き物があると大勢の方が見に来てくれるので、誰かが水槽を覗いたり質問をしたり、いつもにぎやかでした。



▲当会の小学生会員 Kくんが手賀沼の魚の解説を



▲市長の星野順一郎さんも魚について質問中

### 勉強会『里山の宝物タナゴ～その釣り方、飼い方、守り方』も開催！

在来タナゴの危機的な状況や今望ましいタナゴの楽しみ方について学びました。

また、8階第1会議室では25日午後、勉強会『里山の宝物タナゴ～その釣り方、飼い方、守り方』を開催しました。講師の鈴木規慈さん(千葉県生物多様性センター)によるタナゴ保全のお話、熊谷正裕さん(タナゴ釣り師、タナゴ研究者)によるタナゴ釣りの文化や道具、釣り方、飼い方についてのお話、会員を含む31名が熱心に耳を傾けました。お話はいずれ



▲地域ぐるみでの保全が重要と鈴木規慈さん

も大変重要な、興味深いものでした。

鈴木さんは、「千葉県にはかつて多くのタナゴ類が生息していましたが、今はタイリクバラタナゴなどの外来タナゴが増え、在来タナゴは激減して多くが絶滅危惧種に指定されています。タナゴ類を守るには減少要因の改善や、タナゴ類と貝類が健全に生息できる地点を増やすことなどが必要で、行政や住人、研究者の協力が不可欠です。一人一人が正しい知識をもち、情報を寄り、専門機関とも相談して地域における保全計画を立てることが大切でしょう」



▲精巧な道具にもみんな興味津々(熊谷正裕さん)

とタナゴの危機的な状況と保全のための具体的な計画の立て方について、わかりやすく解説してくれました。

また、熊谷さんは、

「タナゴ釣りは水田にも関係が深く、古くから人々に身近な淡水魚。数センチの魚を対象にした釣りは世界的にも類がありません。関東では江戸時代からタナゴ釣りが行われ、食べるためではない遊びの文化としての釣りが定着しました。それは脈々と受け継がれ、昭

和 30 年代にもブームが起きています。生息

数も生息場所も多かった時代は数を競う競技性の強い釣りであり、冬の風物詩でもありました。道具も精巧繊細華美で、季節によって釣り方も道具も変わります。自分で釣ったタナゴを飼育する楽しみもあります。飼育することで生態を観察し、釣りにも生かします。

現在、霞ヶ浦や手賀沼では在来タナゴ類の生息確認もむずかしい状況です。タナゴの産卵母貝となる二枚貝を含めて乱獲が横行し、愛好家などによる他地域のタナゴの放流といった問題も増えています。今日、数を多く釣って楽しむより一匹一匹を大切に釣り、その生息環境にも目を向けることが必要だと思います。人がタナゴを少しばかり捕ったり釣ったりしても減らない、どこにでもいる雑魚になることを願っています」

とタナゴの魅力と今望ましい楽しみ方について語りました。

終了後は「タナゴについての広い話が聴けてよかった」「タナゴが生息できる環境を守ることの重要性がわかった」「タナゴ釣りは道具もきれいでおもしろい」と言った意見が聴かれました。小さなお子さんも静かに耳を傾けてくれて、お話がおもしろくてよかったと安心する一方、偉いなあと感心した 2 時間でした。